

## 「全国学力・学習状況調査」の分析結果の概要

本年度の全国学力・学習状況調査は、4月17日(火)に全国の小中学校において実施され、本校でも6年生42名が参加しました。過日、その調査結果が公表されました。

本校では、「知・徳・体のバランスのより高い調和」を目指した教育活動に努めており、全国学力・学習状況調査の結果はその一部ではありますが、子どもたちの現時点での状況を捉えることができます。

この結果を受けて学校では、指導方法の改善や校内研修の活性化に努めるとともに、その概要を保護者や地域の皆様にお知らせし、家庭はもとより地域の皆様を含めて総ぐるみで教育を考えていただく機会にしたいと考えております。

全国学力・学習状況調査は、平成19年度から毎年実施されており、調査の「目的」「対象」「内容」は次の通りです。

### 調査の目的

- ・全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策を検証し改善を図る。
- ・各学校、教育委員会において、全国的な状況との関係を通して、個々の児童生徒及び学校の状況を把握し、改善に努める。

### 調査の対象

- ・小学校6年生、中学校3年生も原則全員

### 調査の内容

#### ① 教科に関する問題

- 国語科…A問題：主として「知識」に関する問題、B問題：主として「活用」に関する問題
- 算数科…A問題：主として「知識」に関する問題、B問題：主として「活用」に関する問題
- 理科……主として「知識」に関する問題及び主として「活用」に関する問題  
(理科については、3年に一度の調査となっています。今年度は実施しました。)

#### ② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

## 本校の学力・学習状況の結果と分析改善

### 学力調査の結果

本校の教科に関する問題の状況(全国・山梨県との比較)

本校の平均については、算数Aはほぼ同等で、その他は全国平均及び県平均をやや上回っていました。文部科学省では、平均との差が±5%を微差とし、「±5%は、ほぼ同等を意味する」としています。

【参考資料】教科別平均正答率(全国・山梨県)

	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
全国 平均	70.7%	54.7%	63.5%	51.5%	60.3%
山梨県平均	71%	54%	62%	50%	60%

### 教科における主な課題

本校の課題として、以下の内容が考えられます。これは、県、全国平均より悪いものを示したのではありません。本校として、正答率の低い傾向にある内容をあげました。ですから、正答率が県・全国平均を

上回っているものも含んでいます。

### 国語

#### A「知識」

- ・文章で使われている意味にあった漢字を書くこと。  
(同音異義語の誤り)
- ・文の中における主語と述語の関係を理解し、正しく書くこと。
- ・目的に応じて、必要な情報を選ぶこと。

#### B「活用」

- ・話し合いの一部の文章を読んで、それぞれの意見の意図を理解し、理由つけて意見を書くこと。
- ・目的や意図に応じてどんな文章を書けばよいのか考え、内容の中心を明確にするとともに条件を満たすように文章を書くこと。

### 理科

- ・大雨が降るとい自然現象と築山にペットボトルで水を流すという実験を結び付け、結果を考察し記述すること。
- ・太陽の1日の動き方と光電池を結び付け、光電池の置き方や向きを考えること。
- ・食塩水の重さが(食塩の重さ+水の重さ)になることを正しく理解すること。(体積が増えた場合であっても、質量保存の法則が適応されること)

### 算数

#### A「知識」

- ・小数の場合でも一つ分の大きさを求める時にわり算を使う計算。
- ・2直角より大きい角度を分度器から読み取ること。
- ・円周率(直径と円周の関係)を理解すること。
- ・割合を求め、百分率で表すこと。
- ・折れ線グラフから変化の特徴を読み取ること。

#### B「活用」

- ・複数のグラフを関連させ、総数や変化について考察すること。
- ・また、棒グラフと帯グラフなど、種類が異なるグラフであっても適切に判断し、正確に読み取ること。

## 教科における具体的な取り組み

### 国語

- ① 書く活動の機会を増やす
  - ・読み手や目的に応じた文章を書く活動を増やす。また、様々な条件(文字数、引用、主語・述語を明確に、自分の考えと理由)を設定し書く機会を増やす。
- ② 読解の時間の工夫
  - ・長文の読解に慣れさせる。必要に応じて文の中に線や印などを書き込みながら読む。
- ③ 漢字練習の工夫
  - ・同じ漢字でも訓読みや音読みがあるので、教科書の単元で取り扱う読み方だけでなく、様々な漢字の読み方を紹介し練習する。
  - ・習った漢字を使った短文づくりを行い、漢字を文章の中で使えるような練習を行う。

### 算数

- ① 基礎・基本の反復練習、発展的な問題への適応力の向上
  - ・公式を繰り返し確認させたり関連している既習事項に触れたりして基礎・基本の反復練習に取り組む。
  - ・発展的な問題を家庭学習や朝学習などで取り組み、適応力を高める。
- ② 表やグラフへの理解の定着の工夫
  - ・他教科を含めて、グラフから何が読み取れるかを考える時間を確保する。
- ③ 発表の時間の工夫
  - ・自分の考えを文章や式、図などで説明する場(小集団や全体)をつくり表現力を培う場を設ける。
- ④ 振り返りの時間の確保
  - ・学習感想や本時のまとめを書く時間を必ず設け、自身の学習を振り返る時間をつくる。

### 理科

- ① 教科書の基本的な実験をした後、次にどんな実験をしていけばよいか考えさせるなどして、実験した内容を自ら日常の生活に活用する機会を作る。
- ② 実験結果から言えることを考察する時間をとり、記述したり説明したりする機会を増やす。
- ③ 実験をふり返り、生活と結び付けたり、物づくりを行ったりする時間を増やし活用する力を付けられるようにする。

実際の問題の一部を紹介します

国立教育政策研究所のHPに全問題、正答例等が掲載されています。よろしければ参照して下さい。

正答例↓ 反省点は、用具の手入れをあまりしなかったことです。

【春休みの出来事の一部】 文のはじめにある数字は、その文の番号を示しています。

① ぼくは、校庭で野球の練習を毎日がんばりました。その努力は見事に実りました。② ぼくたちのチームは、地区大会で優勝したのです。③ 今年の春休みは、とてもじゆう実したものでなりました。でも、反省していることもあります。④ 反省点は、用具の手入れをあまりしませんでした。これからは、練習だけではなく、用具の手入れもしっかりがんばりたいと思います。

（問い） …… 都と …… 都とのつながりが合っていない文の番号を、①から④までの中から一つ選んで書きましょう。また、…… 都はそのままにして、文の意味が変わらないように、選んだ文を正しく書き直しましょう。

※解答は、解答用紙に書きましょう。

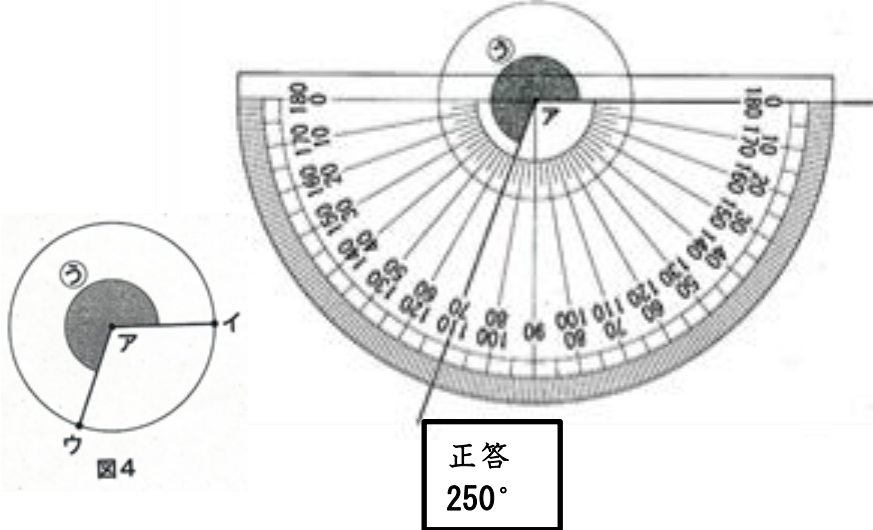
選んだ文の番号……

書き直した一文

正答 ④

出題の趣旨  
 文の中における主語と述語などに注意して、文を正しく書くことができるかみる。  
 （正答率 約30%）  
 本問で主語と述語の関係を捉えにくくしているのは、主語が、（人）ではなく、（反省点）になっているからです。そのため、誤答の中には、「反省点は、用具の手入れをあまりしなかったです。」などが多かったです。  
 述語にあたる部分が動作を表す表現になっているため、主語と述語を適切に照合させるには、（こと）などを補う必要となります。  
 普段から主語と述語の関係を意識して読んだり、文を書いたりする習慣を付けていきたいと考えます。

(2) 左ページの図4のときの角②の角度を、分度器を使ってはかります。角②の角度は何度ですか。答えを書きましょう。



出題の趣旨  
 180°より大きい角の大きさを求めることができるかどうかみる。  
 （正答率 約50%）  
 主な誤答として、(110°, 70°, 290°)がありました。  
 180°をよりも大きい角の大きさの測定にあたっては、次の2つの方法があります。  
 ① 180°をこえた部分の大きさを考える場合。左の図から180°より70°大きいので求める式は、  
 $180^\circ + 70^\circ$   
 で250°が求められます。

② 360°に足りない部分の大きさを考える場合。上の図から360°より110°小さいので  
 $360^\circ - 110^\circ$   
 で250°が求められます。2つの方法が考えられることが大切です。

## 学習状況調査の結果

### 質問紙調査の結果から見られる主な特徴

本校児童の生活習慣や家庭学習などの状況から特徴として挙げられる点についてまとめます。

#### 生活習慣

「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣については、昨年同様に高い水準ですが、寝る時刻を自分で決められるようになると更に良い習慣が身につきます。

家の人と学校での出来事について話をする児童が全国平均より非常に多く、いい傾向がみられました。今後とも続けてほしい習慣の一つです。

全国と比較して地域の方々との触れ合いを少なく感じている傾向があります。今後の地域学習等で改善していきたいと考えています。

#### 学習習慣

家で宿題をきちんとする習慣や読書を楽しむ習慣は全国平均を大きく上回っています。自分で計画的に学習する習慣が身につくと更に改善できます。

様々な情報をテレビやインターネットで取り入れる傾向が多くの児童から見られます。読解力や表現力を更に身に付けるためには、新聞を読む習慣を身に付けることが効果的です。

#### 学校生活

「学校のきまりを守っているか」の問いに、90%以上の児童が「守っている」と答えています。いじめを許さない態度も備わっています。

人の役に立つ人間になりたいと思っている児童も多いです。

最高学年として、自分たちが関わって学校生活を充実させているという意識を持っています。

#### 自己評価

「将来の夢や目標を持っているか」の問いに83%の児童が持っていると答えています。

「自分には、よいところがあると思いますか」の問いには、約75パーセント以上の児童が肯定的に答えています。全国の平均と比べると若干低いようです。更に自己肯定感を高めるような励ましもよろしくをお願いします。

### 課題を改善するために

本年度の調査結果についてポイントを絞ってお知らせしました。

子どもたちは毎日の授業や学校生活に一生懸命に取り組んでいます。また、それに応えるべく私たち教職員も指導法や評価のあり方などへの研究・研修を重ね工夫を重ねていきます。

調査結果からは、継続した取り組みを行う必要のあるポイントがあることがわかります。なかでもご家庭の皆様には引き続き、以下の3点についてご協力いただきたいと思えます。

1点目は、家庭学習のさらなる改善です。時間の設定だけでも、小学校5・6年生なら最低でも60分から90分間を確保したいものです。学校でも学習した内容を反復練習するような宿題だけでなく、子どもの興味・関心をもとに取り組めるような学習のあり方について、学校でも指導をしていきます。

2点目は、ゲームやスマホ依存から子どもたちを守ることです。大人もスマホ依存症が増えています。身近にあると、つい使いたい、遊びたい誘惑が生まれ、スマホやゲームに依存してしまいます。親子でしっかりと話し合い、家庭ごとのルールを決めてください。

3点目は、世の中で起きていることについて関心を持たせることです。新聞を読んだりテレビのニュース番組を見たりすることは、世の中の動きについて知るとともに、自分なりの考えをもつ機会にもなります。自分なりの考えを持つとする姿勢は、様々な話し合い活動・発表活動などの場につながるものとなります。さらに、一人ひとりが自分の良さに気づき、自信を持ち、他者との人間関係を気づいていくことが大切です。私たち大人が、適切なタイミングで、励まし助言することがやる気と意欲を引き出すことにつながります。

以上の3点について、ご家庭の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。